

2013年日本臨床化学会 新年のご挨拶

一般社団法人日本臨床化学会
代表理事 安東由喜雄

日本臨床化学会の会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年末の総選挙で、政権交代が行われ、様々な問題が山積されているわが国の国情の中で、国民の一人として、どのような方向に舵が取られるのか、注目していかなければならないと思っております。

昨年も本会理事の方々を始め、常置委員会、専門委員会の委員の皆様、会員の皆様には大変お世話になりました。いうまでもなく、臨床化学の領域を取り巻く環境は必ずしも順風であるとはいえませんが、51年度目の新たな一歩を踏み出した本会にあって、今後のさらなる発展を願い、化学会が元気を取り戻すために、学会としてどうあるべきか、時代に即応した学会として確固たる地位を築くためにはどういう方向に歩んでいくべきなのかを試行錯誤しながらこれまで歩んで参りました。まず少しでも本会に入りやすくするため、会費の一部見直しを行い、4月より改定実施いたします。また会員増を目指して立ち上げた会員増検討委員会(岩谷委員長)をあり方検討委員会(常置委員会)に格上げし、本会のあり方全般を討議し、21世紀に即応した会となるよう検討するシステムを構築いたしました。具体的には1.臨床化学の理念の原点に立ち返り、本会の独自性を全面に打ち出し、オンリーワンの学会としてのあり方を追求すること、2.絶えず海外に目を向け、より活発に国際交流を行う方法を模索すること(特にアジア地域の臨床化学研究の牽引車となること)、3.学生を含む若い研究者の本会への積極的な参画を奨励するシステムを構築すること、などを目指し、委員の方々を中心に活動が開始されてきております。

このような活動の中で、積極的に本会の良さを宣伝していくことも重要なため、少ない埋蔵金ではありますがそれを取り崩して、魅力的なホームページに作り変えることにいたしました。最新の学会関連の情報を搭載するとともに、企業からのバナー広告もいただく予定にしております。

国際的には、昨年度はIFCCからいくつかの専門委員会の公募がありましたが、それらに積極的に応募したところ、現在7部門で専門委員を出すに至っております。今後はさらに委員を増やす努力をするとともに、是非日本から委員会のChairmanを出すよう、積極的に広報活動をしていきたいと願っております。

皆様よくご存知のとおり、本会は、医師、臨床検査技師、薬剤師、薬学系研究者、企業の方々など多職種、多部門の研究者が多彩な研究を展開しながら今日までの歴史を作り上げてきた数少ない学会のひとつであります。本会はどの学会にもないユニークな活動ができるものと確信いたしております。会員の皆様におかれましては、どうぞ積極的に声をあげていただき、本会のさらなる発展にご協力くださいますようお願い申し上げます。

2013年元旦、熊本にて